

開講期	2025年度前期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	5636 勤労の文化学			開講形態（隔週 偶数＝隔週2コマ）	週間授業
種別	人数制限(抽選)			定員	75
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	×	全学開講	○
曜日時限	月曜4限				
教室	H303教室				
代表教員	角尾 宣信				
担当教員	角尾 宣信				
テーマと到達目標	勤労、働くことは「国民の三大義務」の一つとされています。しかし、その形態は時代によって大きく異なり、また当該社会の文化・社会規範に大きく左右されます。本授業では、欧米や日本の前近代・近代の勤労をめぐる言説や表象を題材に、それらを分析していくことを通じて、働くことの多様性に触れ、自分の働き方を選択し、考え、見直していくための知識や生きる術を学ぶことを目的とします。				
概要	学期前半では、近現代日本の勤労環境の基となった近代欧米の勤労の文化を考察します。後半では、前近代江戸期の日本の人々の働き方から明治以降の転換、そして敗戦後の勤労環境の変遷を追い、現代の非正規雇用の問題も考察します。また、「働くこと」を考えるために、「働かないこと」（余暇）や「働かないこと」への罰（刑務所制度）の歴史的変遷を考えたり、「働くこと」への駆動力となるお金の起源について考えたりと、様々な観点から、私たちにとって「働く」とは何かに迫っていきます。取り上げる題材は、文学や絵画、映画およびドキュメンタリー映画、コントや漫才、様々な哲学や思想の他、新雑誌記事やネット上でのテキストも題材とします。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員（複数の教員が担当する場合のみ記載）	授業方式
第1回	オリエンテーション——勤労の文化ってなんだ？				対面授業
第2回	バカンス・余暇ってなんだ？ ——日仏勤労比較				対面授業
第3回	ヨーロッパ近代の勤労大転換！（前編） ——プロテスタントと初期資本主義				対面授業
第4回	刑務所と勤労——刑罰は真面目な勤労者を生むのか？				対面授業
第5回	ヨーロッパ近代の勤労大転換！（後編） ——「余暇＝怠惰＝悪」という価値観と刑罰				対面授業
第6回	近代の権力と勤労——刑務所・工場・学校・軍隊				対面授業
第7回	近代の権力に抗する市民社会の形成——風刺と共産主義				対面授業
第8回	バカンスへの道（前編） ——勤労重視の近代文化の転換				対面授業
第9回	バカンスへの道（後編） ——フランスの労働運動と戦後復興				対面授業
第10回	前近代日本の勤労——江戸期の人々の働き方				対面授業
第11回	いつ・どこで・だれが、お金を発明したのか？ ——貨幣と国家				対面授業
第12回	近代日本の勤労——貨幣と時間を支配せよ！				対面授業
第13回	敗戦後日本の勤労——戦時中までのシステムの隠蔽と温存				対面授業
第14回	高度経済成長の幻影——日本型雇用制度の迷走の現在				対面授業
第15回	まとめ				対面授業
成績評価の基準	定期的な小レポート（200字以上。提出方法等は初回授業で指示）と、学期末レポート（課題内容や提出方法等は後半の授業回で指示）により、成績評価します。出席はポータルでの登録により管理しますが、欠席が6回以上の者は単位認定しません。また、インターネット上等から複製した文章を出典明記せず記載した回答は、一回でも「剽窃行為」として不可、複数の者が同文の回答を提出した場合も全員を不可とします。				
履修にあたっての留意事項	・試験は行いませんが、各回授業の後に提出する課題小レポートの内容が成績評価を左右します。 ・小レポートにおいては、チャットGPTの使用を禁止します。発覚した場合は呼び出し、または不可とします。				
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細					
【種別】人数制限（抽選）授業の優先条件					

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用	なし		
教科書	各授業で資料を配布します。また、映像や音声資料に関しては、授業中に抜粋部分を観賞し、議論します。	教科書(ISBN)	
参考文献	各授業で指示します。	参考文献(ISBN)	